

場所 北海道網走市

面積 329ha

活動目的 日本固有の豊かな自然を守り、地域における人と自然との共生について次世代に継承する。希少な動植物の知識を深め、自然と共生できるテストコースの運営を推進し、生物多様性保全への貢献及び自然環境との調和を図る。

サイト概要

本サイトは、北海道網走市街地より南西約15km、女満別空港より北西約10kmに位置する。敷地面積550haのうち、実車試験を行うテストコースエリアは251ha、森林は299haと敷地の54%を占めており、人工林面積は250ha(83.6%)、残り49ha(16.4%)が天然林である。サイト内はベニバナヤマシャクヤクや、クリンソウ群落が形成されており、保護活動を行っている。また、エゾサンショウウオの卵塊を毎年確認するなど定期的なモニタリングを実施している。自社が所有する広大な森林の生態系の重要度を地域と共に把握し、生物多様性の持続的な保全を目指している。



**土地利用の
変遷**

本サイトの森林は、かつて大部分がカラマツ単層林（人工林）で、比較的急峻な沢部に自然林が残っていた。1998年に土地開発を開始し2002年に完成した。
現在はテストコース隣接エリアとその他のエリアにゾーニングし、育成単層林、水源涵養林、土砂流出等の保全林、騒音防止林等の森林の公益的機能が十分に発揮出来る森林施業を進め、開発当時より針広混交林化を目指している。

**サイト周辺の
環境**

サイトの北から東は、主にジャガイモ、甜菜、大麦、小麦などの農地、その奥に能取湖、網走湖の汽水湖がある。西側は乳牛等の育成牛放牧地、南から西にかけてカラマツ人工林が主となる森林が広がる。当サイトは森林と農地を隔てる緩衝帯の役割やエゾシカ等の食害防止効果もある。

**アピール
ポイント**

クリンソウ、エゾサンショウウオ、ベニバナヤマシャクヤクなどの希少動植物が確認されており、自然と人との共生が確保された場である。開発当時から網走地区森林組合と生物多様性を高める針広混交林化、さらには広葉樹を主体とする天然性林化を目指している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

サイト敷地面積の54%が森林で、そのほとんどが針葉樹で形成される人工林および、面積は少ないものの主に広葉樹で形成される天然林で構成されており、森林内には動物や鳥類、昆虫類の生息を確認している。

また、サイト内の湿地には両生類や水生昆虫の生息を確認しており、一部希少動植物も確認されている。

【主な植生】

山林は主に針葉樹の人工林で構成され、沢沿いの急傾斜地には広葉樹を主とする天然林があり、林床は主にクマイザサやシダ類に覆われている。また湿地には湿生植物が繁茂している。

【確認された主な動植物など】

山林はカラマツ、トドマツ、アカエゾマツ、ヨーロッパトウヒ、シラカンバなどの人工林、ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、オニグルミ、エゾイタヤ、コブシなどの天然林が木本類として確認されており、クマイザサ、ミゾソバ、コンロンソウ、オシダなどの草本類も確認されている。

湿地にはヤチダモ、ハルニレ等の木本類、カサスゲ、キツリフネ、アキタブキ等の草本類が確認されている。

開発当時、動物は哺乳類としてエゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、エゾリス、エゾユキウサギ、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾシカ等、鳥類はアオサギ、トビ、キジバト、カッコウ、ウグイス、アカゲラ等、爬虫類はアオダイショウ、両生類はエゾサンショウウオ、陸生昆虫はエゾハルゼミ、ハネナガキリギリス、エゾスジグロシロチョウ、ヒメクロオオサムシ、水生昆虫類はオニヤンマ、エグリトビケラ科、ガガンボ科、ゲンゴロウ科の昆虫が確認されている。現在調査をしている動物種は、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、エゾリス、エゾユキウサギ、エゾタヌキ、エゾシカ、エゾサンショウウオであり、2024年4月にはカラマツにクマゲラの食痕を発見し、2024年5月よりモニタリングを開始している。



写真の説明：エゾリス



写真の説明：エゾユキウサギ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイト内のカラマツ人工林内において、ベニバナヤマシャクヤクを確認している。
サイト内の水路付近の滞水域において、エゾサンショウウオの生息を確認している。

●ベニバナヤマシャクヤク (*Paeonia obovata*)
環境省レッドリスト2020 絶滅危惧II類 (VU)、
北海道レッドリスト 絶滅危惧種 (EN)

●エゾサンショウウオ (*Hynobius retardatus*)
環境省レッドリスト2020 情報不足 (DD)
北海道レッドリスト 留意種 (N)

いずれも生息が確認されている場所を立入禁止とし、年4回定期的に観察を実施している。

ベニバナヤマシャクヤクについては葉や茎の様子が毎回確認され、花の様子は観察時期が合わず確認することができない年がある。

エゾサンショウウオについては、毎年卵塊を確認しているものの、幼生、成体は確認することができていない。



写真の説明：ベニバナヤマシャクヤク



写真の説明：エゾサンショウウオ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・森林については、森林経営計画を立案し、計画に沿った施業を行っている。 ・希少動植物は、毎年5・7・9・11月上旬の晴れた午後に生息状況の調査及び、保護エリアの区画状況の点検を実施。保護エリアについては特段手入れを行わず、自然の状態を維持する。 ・デンソー緑のプロジェクトは対象小学校の意向によるが、毎年市内の小規模校2～3校に参加を呼びかけ、8月～9月に各校約半日のスケジュールでイベントを開催している。 	<p>【モニタリング対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ベニバナヤマシャクヤク ●クリンソウ群落 ●エゾサンショウウオ（卵塊） <p>【モニタリング場所】</p> <p>サイト内におけるモニタリング対象地</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>植物：株数の確認、葉や茎の状態を目視で確認。 動物：滞水状況、卵塊の状態を目視で確認、周囲に成体がないか目視で確認。植物・動物：保護エリア内の状態（前年同時期との比較）</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <p>毎年5・7・9・11月（日付は指定しないものの第1週目が望ましい）の晴れた午後に実施する。</p> <p>【モニタリング実施体制】</p> <p>デンソー網走テストセンター施設管理グループリーダーをモニタリング責任者とする。 同施設管理グループ員をモニタリング担当者とする。</p>